

1 背景と現状

- バス運行計画最適化に向けて、①各停留所の乗車人数②各停留所の降車人数③移動需要(OD:特定人物がどこからどこまで乗ったか)を把握したい
- 現状、①はバス運転手が手書きで記録し、後日データ入力している。
②③は調査員による乗り込み調査以外では把握できていない

【R5実証結果】AIカメラを活用したバスの乗降人数可視化プロジェクト

- ①②：AIカメラの乗降者カウント精度は80%程度で、傾向として乗車時のカウント漏れや降車時の重複カウントが起きることも判明
- ③：リソースの理由から実証スコープ外

3 実現したい未来

- R5：AIカメラを活用し、乗降者人数を把握する（①②）
R6：ODデータ取得を主眼とし、人数把握精度も高める（①②精度向上と③）
R7：ODデータを活用し、民間企業等と連携したおでかけ促進イベント実施
ODデータの裏付けを元により住民ニーズにあったバス路線再編に繋げる



2 解決したい課題

- R6は③移動需要（OD）の把握に主眼を置き、バス利用者の属性による傾向や、変化の傾向・理由を分析したい
- その他、AIカメラの把握精度を向上させて、①バス乗車人数を手書きで記録する運転手の負担軽減も図りたい

4 想定する解決策や技術

- ③について、AIカメラによる顔認証技術やスマートフォン活用により、利用者個人のODデータを取得（一定期間）
- ①②について、代替技術を用いた把握精度の向上（通年）



例：AIカメラ



※富山市八尾地域コミュニティバス
出典：富山新聞